

東十八間櫓

東十八間櫓（「東にある長さ 18 間の櫓」）は、17 世紀初頭に建てられた木造の櫓です。「間」とは昔の単位で、およそ 1.82 メートルに相当します。不思議なことに、この櫓の長さが 34 メートルなのに対し、隣の北十八間櫓（「北にある長さ 18 間の櫓」）は全長 40 メートルもありました。

2016 年の地震では、櫓とその下の石垣が倒壊し、下の社務所に落下しました。現在、この場所から回収された 1900 個の石材やその他の構造材が、整理・目録化した上で保管され、修復工事の開始を待っています。